



# 米国株 MARKET PICK UP



## 先週の米国株式市場—原油安などが重荷となりダウ平均は7日続落—

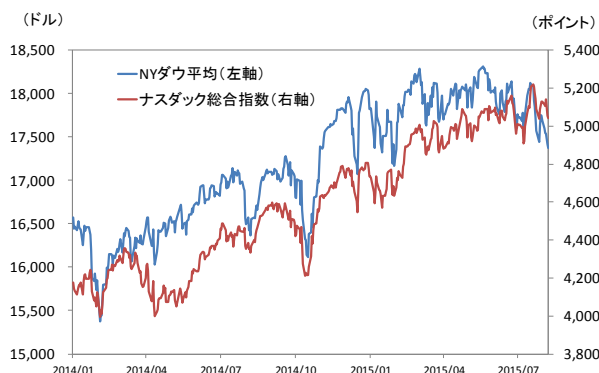
	前週終値	8月3日	8月4日	8月5日	8月6日	8月7日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	17,689.86	17,598.20	17,550.69	17,540.47	17,419.75	17,373.38	-316.48	-1.79%
騰落幅		-91.66	-47.51	-10.22	-120.72	-46.37		
S&P500	2,103.84	2,098.04	2,093.32	2,099.84	2,083.56	2,077.57	-26.27	-1.25%
騰落幅		-5.80	-4.72	+6.52	-16.28	-5.99		
ナスダック総合指数	5,128.28	5,115.38	5,105.55	5,139.94	5,056.44	5,043.54	-84.74	-1.65%
騰落幅		-12.90	-9.83	+34.39	-83.50	-12.90		

### ＜先週の概況＞

先週の米国株式市場は主要3指数がそろって下落しました。中でもダウ平均は7月30日から8月7日まで7日続落となりました。

原油価格の下落が続いたことが重石となりました。また、ISM非製造業指数や雇用統計などの経済指標が堅調だったことや、FRB高官が9月利上げの開始が適切であるとの意向を示したことから、利上げが9月にも行なわれるのではないかとの思惑が高まりました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



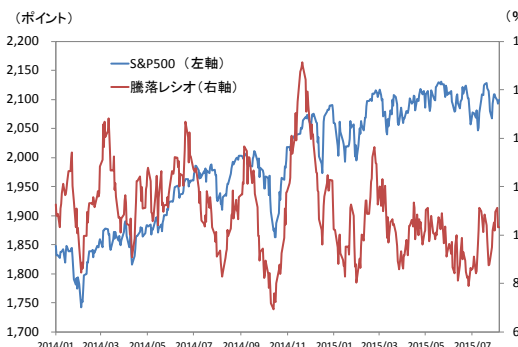
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

## 米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	15.7	3.0	2.5%
S&P500	17.5	2.8	2.1%
ナスダック総合指数	22.1	3.7	1.2%

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2015年8月7日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

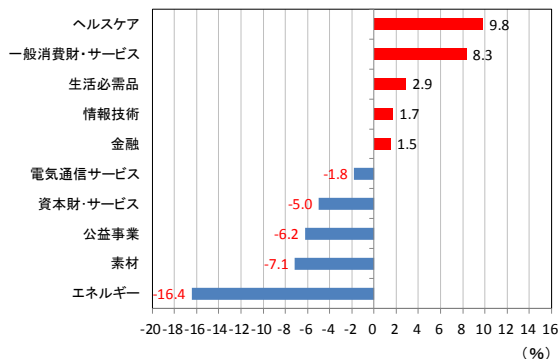
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

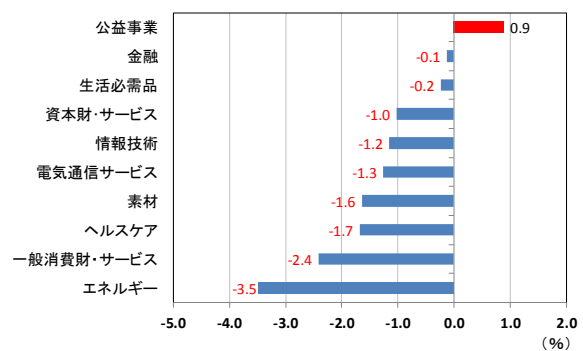
## 業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

## ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング(8/3-8/7)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
AXP	アメリカン・エクスプレス	4.8
KO	ザ コカ・コーラカンパニー	1.7
UNH	ユナイテッドヘルス・グループ	0.3
MSFT	マイクロソフト	0.1

(出所) マネックス証券作成

値下がり率ランキング(8/3-8/7)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
DIS	ウォルト・ディズニー	-8.9
CVX	シェブロン	-5.3
AAPL	アップル	-4.8
IBM	IBM	-4.2
DD	イー・アイ・デュポン・ドゥ・ヌムール	-4.2
XOM	エクソンモービル	-3.0
PFE	ファイザー	-2.4
UTX	ユナイテッド・テクノロジーズ	-2.0
CAT	キャタピラー	-1.7
MRK	メルク	-1.7

(出所) マネックス証券作成

### <上昇>

ダウ平均採用の 30 銘柄中上昇は 4 銘柄のみとなりました。中でもアメリカン・エクスプレス (AXP) はアクティビストヘッジファンドのバリューアクト・キャピタル・マネジメントが 10 億ドル相当の株を取得したことが明らかになり、大きく上昇しました。

### <下落>

ウォルト・ディズニー (DIS) は 4-6 月の売上高が市場予想に届かなかったうえ、ケーブル・ネットワークス部門の利益見通しを引き下げたことが嫌気され 9%近い大幅下落となりました。シェブロン (CVX) やエクソン・モービル (XOM) は原油価格の下落が嫌気されともに大幅安となっています。

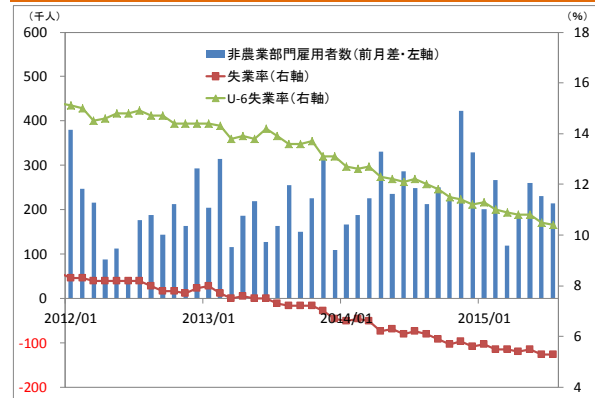
先週発表された主な経済指標

雇用統計

7日に発表された7月分の米国雇用統計は米国労働市場が堅調な回復を続けていることを示唆する内容でした。非農業部門雇用者数は前月差21.5万人増と市場予想の22.5万人増を下回って前月から伸びが鈍化したものの、堅調な回復の目安とされる20万人を上回り、さらに6月分は22.3万人増から23.1万人増へ、5月分は25.4万人増から26.0万人増にそれぞれ修正されました。

労働者の平均賃金は前年比2.1%の上昇と前月の2.0%の上昇から改善したものの、市場予想の2.3%は下回りました。概してみると、堅調な内容だったものの9月利上げを確実視させるほどの強いものではなかったようです。

非農業部門雇用者数と失業率・U-6失業率の推移



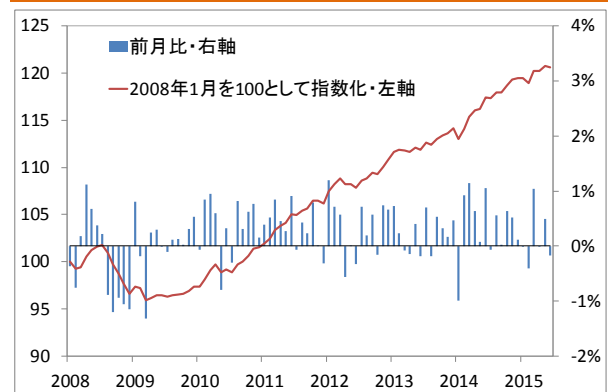
(出所) マネックス証券作成

今後発表される主な経済指標

7月 小売売上高(前月比) 市場予想 +0.6% 前月 -0.3%

13日に7月分の小売売上高が発表されます。6月分は前月比マイナスでネガティブ・サプライズとなっただけに、7月分で回復が見られるかが注目されます。市場予想では前月比0.6%の増加と堅調な内容になると予測されています。

小売売上高(自動車・ガソリン除く)



(出所) マネックス証券作成

マーケットビューー弱い推移続くも米国株は長期的に買える局面との見方を維持ー

先週のマーケットビューーでは、企業収益の改善などを背景に、米国株は長期的に買える水準であるとの見方をお示ししました。ただ、結果的にダウ平均が週間で300ドル超下落するなど米国株は冴えない値動きとなりました。

先週発表された主な経済指標のうち、新車販売台数（年率換算 1755万台）、ISM 非製造業景況感指数（56→60.3）、雇用統計などが堅調で、ISM 製造業景況感指数はやや軟調でした。中でもISM 非製造業指数の強さは圧巻で、約10年ぶりの高水準を記録しました。引き続き米国経済は良好であり、利上げという目先の重石はあるものの、中長期的に見て買っていける水準にあるとの考えを維持しています。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

**利益相反に関する開示事項**

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
  
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会